

ま ち の 話 題

豊岡

円山川下流域冬鳥観察会 豊岡に立ち寄った渡り鳥 見つけた!

1月31日、越冬のために日本を訪れる冬鳥の観察会が行われました。

立野大橋東詰堤防(立野町)から始まった観察会では、円山川を遊泳するカモ類をはじめ、水を張った田にたえずむコハクチョウやマガンを確認しました。また、行く先々で、コウノトリも姿を現してくれました。

但馬野鳥の会会長の早川貞夫さん(中陰)は「冬鳥はこの時期、日本の能登半島から宍道湖上空を通ります。渡り鳥が降り立つことは環境が良いことの証しと言えます」と話します。参加者は、良好な自然環境を前に、約30種の野鳥に出会えたことに歓喜していました。



▲図鑑を片手に野鳥を観察する参加者たち

城崎

スナッピンきのさき

城崎温泉の思い出づくりを マスコットたちが手伝い

2月10日、JR城崎温泉駅前のさとの湯イベント広場で「スナッピンきのさき」(城崎温泉観光協会主催)が開催されました。これは、城崎温泉を訪れた観光客に、思い出の写真を持つて帰ってもらおうと、カニシーズンの2月と3月の2回、実施しているものです。

当日は、先着60組の観光客が、城崎温泉街マスコットの松葉ガニの「ジョーくん」「サキちゃん」と、市のマスコットの玄武岩の「玄さん」と一緒に記念撮影し、にぎわいました。

玄さんは、縁結びにもご利益があるということで、独身の方からは、写真を撮られたり、握手を求められたりする人気ぶりでした。



▲「ハイ、ポーズ!」写真はその後で手渡された

竹野

子どもの野生復帰大作戦「雪遊び大作戦」 ここは雪国!? 雪遊びは楽しいね!

2月14日、竹野町三原で子どもの野生復帰大作戦「雪遊び大作戦」を開催し、約200人の小学生やスタッフらが、かまくらや雪像作り、ソリ遊びなどを楽しみました。

雪不足が心配されましたが、三原高原は積雪が約20センチあり、三原区の方々の協力で全長約6メートルの滑り台が完成し、子どもたちは、ソリやタイヤのチューブなどに乗り、歓声を上げながら滑っていました。

雪像で富士山を作った田村佑哉君(五荘小4年)は「富士山はかき氷みたいになり、うまく作れなかったけど、ソリはすごく楽しい」とはしゃいでいました。



▲順番にソリ滑りを楽しむ子どもたち

日高

第1回冬の神鍋高原ウォーク

スノーシューで

神鍋の冬山の魅力を再発見

1月31日、第1回冬の神鍋高原ウォークを実施し、35人が参加しました。

参加者は、クロスカントリースキーと、スノーシューのコースに分かれ、道の駅「神鍋高原」(日高町栗栖野)を発着点に、神鍋山周遊公園やその周辺を歩きました。

特にスノーシューのコースでは、スキーでは入れない雑木林の中を進むなど、約6キロメートルの冬山散策を楽しみました。

スノーシューを体験した田中裕佳さん(養父市)は「豊かな自然の中で、いい運動になった。ウインタースポーツを始めようとしている人にもお勧めです」と話していました。



▲スノーシューを履いて、冬山を楽しみながら、道なき道を歩く参加者たち

出石

わらべうた&折り紙 伝承遊びを通して

親子の触れ合い

2月10日、出石子育てセンターで「わらべうた&折り紙」を開催し、25人の親子が参加しました。同センターでは、道具が何もなくとも遊べる古くからのわらべ歌を伝えていきたいと、平成19年から専門家の指導を受けて、親子に伝授しています。

当日は、わらべ歌に合わせてお手玉遊びやまりつきをした後、ハート型飾りの紙箱も作りました。

参加者の三木美佐子さん(出石町谷山)は、「わらべ歌は、親子の触れ合いにぴったり。昔の遊びが分かり、交流もできて、楽しい時間を過ごせました」と喜んでいました。



▲わらべ歌のお手玉運びは、親子で優しさを伝達する遊びです

但東

ジャンボ巻き寿司&ゲーム大会

みんなで一緒に

長〜い巻きずし作り

2月14日、高橋地区公民館(但東町久畑)で、ジャンボ巻き寿司&ゲーム大会(スポーツクラブ21たかはし主催)が行われ、子どもから高齢者まで約70人が参加しました。

ゲーム大会では、豆取りやお手玉入れ、輪投げなどで体を動かし、得点を競いました。

続いて、今年で6回目となるジャンボ巻きずし作りに挑戦。5人1組となり、のりの上に酢飯を広げ、玉子焼き、かまぼこ、キュウリなどを乗せて巻き上げ、長さ約2・5メートルの巻きずしを完成させました。

その後は、切り分けて、みんなでみそ汁と一緒に味わいました。



▲みんなで協力してジャンボ巻き寿司を作る参加者たち